

CS だより

日本キリスト教団逗子教会
牧師 小宮山剛
校長 渡辺 信

聖書のことば

『私の平和をあなたたちに与えます。私はこれを、世界が与えるようには与えません。』

ヨハネによる福音書 14章 27 節

普通「平和」というと、単に平和がない状態や、何のトラブルや心配もない安全な状態をイメージしがちですが、イエス様の平和は違うものようです。苦しいことや試練がないわけではないのです。イエス様自身、十字架上で大きな苦しみを味わいました。でもあれほど大きな苦しみに耐えられたのは、心の内に決して消えない平和があったからでしょう。何があっても、最終的には神さまが良くしてくださる、という信頼に基づく平和なのです。

『イエスのことば 100』より

9月になっても暑い日が続いていますが、緑色だった木の葉が茶色や黄色やオレンジ色になってきました。柿の木には小さい実がついています。夜の寝苦しさも、ほんの少し和らいだような気がしますね。コロナによる制限は続いていますが、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋を、元気に過ごせるといいですね。

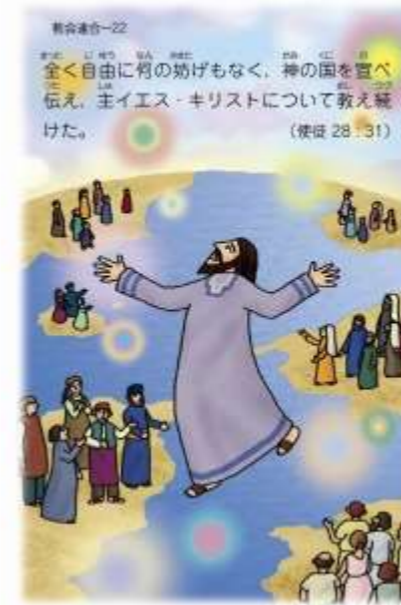
さて、8月までは、礼拝では、使徒言行録に書いてあるパウロさんの働きを通して、教会がどんな働きをするところかという説教が続きましたが、9月からは、教会が皆さんに伝えたい大切な教えについての説教です。10時半からの礼拝で必ず唱える『使徒信条（しとしんじょう）』という教えについて、わかりやすくお話しします。でも、もしお話の中でわからないことがあったら、メールやファックスで質問してくださいね。ほかにも、教会のことでわからないことがあったら、連絡してください。待っています。

~~~~~ここからは、礼拝でのお話です~~~~~

## 8月30日の説教から 『ローマでの伝道』

新約聖書：使徒言行録 28章 23~31 節  
こどもさんびか：130 『いつくしみふかい』  
25 『たたえよしゆのたみ』

パウロさんはずっと諸外国をまわってイエス様のメッセージを伝えてきて、最後にローマにたどりつきます。ローマはローマ帝国の中心地ですから大きな都市です。エルサレムから遠く離れた大都市ローマで宣教するという事は、イエス様のメッセージを世界中に伝えていくためにはとても大切なことでした。まさにその機会が得られたということです。聖書に「まったく自由に何の妨げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた」（使徒言行録 28章 31 節）と書かれているとおりのです。（カード参照）



これは素晴らしいことです。まさにパウロさんが望んだことが実現しているのです。しかし、よく聖書をよむと、そんな単純な話ではないことがわかります。先ほど、パウロさんは「ローマにたどりついた」と申しあげましたが、自分の意志でまるで旅行にでも行くようにローマに来たわけではありません。聖書をお読みいただければわかるとおり、パウロさんは何も悪いことをしていないにもかかわらずエルサレムで逮捕され、裁判にかけられるために囚人としてローマに連れてこられたのです。しかもその途上では嵐にあたりと紆余曲折がありました。すなわち、パウロさん自身の計画ではないということです。そりゃそうですね。自分が無実の罪で逮捕されて護送されるという計画を立てる人はいないでしょうし、そんなことはそもそも計画を立てて実行できることではないでしょう。

では誰がパウロさんを導いたのでしょうか？

それは使徒言行録の最初のほうにちゃんと書かれています。イエス様が「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」（使徒言行録 1章 8 節）とおっしゃっています。

ここにはローマという地名は出てきませんが、地の果てに至るまで、という言葉の中に当然ローマも含まれています。「証人になる」というのは、証をするという意味で、すなわちイエス様のメッセージを宣べ伝えるという意味です。そう考えればわかるでしょう。「聖霊が降ると」とありますから、聖霊がパウロさんを導いたということです。パウロさんは聖霊に導かれて囚人の身でありながらローマで「まったく自由に何の妨げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた」というのです。不思議なことです。しかしこれが聖書に書かれていることです。

ところで使徒言行録はパウロさんのローマでの宣教をもって終わったのでしょうか。書物としては確かに 28 章で終わりです。しかし、聖霊の導きによる宣教は終わっていません。今も続いています。「地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」とあるとおりです。この逗子教会が地の果てかどうかはわかりませんが、少なくとも今ここでイエス様のメッセージが伝えられていることも使徒言行録の続きだということです。そして逗子だけでなく世界各地でイエス様のメッセージが伝えられているのはすべて聖霊のはたらきだということになります。

ということは・・・今、私たちが教会で礼拝しているのも聖霊のはたらきによるということです。不思議な気がしませんか。皆さん、聖霊の導きで教会に来ているのですよ。そんなことは信じられないと思うかもしれませんが。確かにそうですね。聖霊は見えないし、言葉も発しませんから。聖霊に連れてこられた覚えはない、と。けど、聖書にはそう記されています。果たしてどうなのでしょう。

どうして自分は教会に来るのだろうか。なぜイエス様を信じられるのだろうか。聖霊はほんとうにいるのだろうか。ぜひ使徒言行録を読みながら考えてみてください。

<Y. Y>



9月6日の説教から 『求めるものに神さまは与えられる』

新約聖書：マタイによる福音書7章7～11節

こどもさんびか：54 『ガリラヤのかぜかおるおかで』

25 『たたえよしゆのたみ』



今日の聖書のお話はイエスさまに神さまのお話を聞きたいと言って集まった人たちにイエスさまが山の上で語られたお話の一つです。山の上でお話したので、山上の説教と言います。イエスさまが、神さまにはこうなさい、神さまはこう言ったことをあなた達に望んでいるんだよといったことを神さまのことを強く聞きたいと思っている人々、そこまで強く思っていないくても、これは大事なこともかもしれない、聞いてみようかなと思っている人々に語りました。

今日、この朝、ここにいる皆さんも逗子教会に集まってこうして礼拝を守っています。神さまのお話を聞こうとしています。そういう意味では皆さんも神さまのお話をイエスさまに聞こうと集まった人とおなじです。だから、今日の聖書のお話はイエスさまがここにいるみんなにも語っていることです。そういう気持ちでイエスさまのお話を聞いていきたいなと思います。今日の聖書箇所は神さまがみんなに、ここにいるみんなに、お願いをしていると言っていいかもしれません。

どんなお願いをしているのでしょうか。それは聖書に書いてあるタイトルにもあるように、求めなさい、ということです。求めなさいとは何か困ったことや、気になること、やりたいこと、なりたいもの、欲しいものがあつたら神さまにお祈りをして、その答えを神さまに委ねなさい、ということです。そうしたら、神さまが良いもの、そのお祈りをした人に合う最もよいものを与えてくれるということです。

「求めなさい、そうすれば、与えられる探しなさい、そうすれば、見つかる門をたたきなさい、そうすれば開かれる」

このように私たちが何かをすれば、神さまが私たちにお答えしてくれるということです。なぜイエスさまは神さまに求めなさいと私たちに言っているのでしょうか。それはイエスさまが神さまはなんでもできる、神さまはなんでも知っているということをイエスさまは知っているからです。だから求めていいよ、遠慮なんかしなくていいよって教えてくれるんです。

こどもさんびかの193ページには使徒信条という言葉が載っています。この使徒信条とは教会が何を信じているのか、私たちの信じている神さまはどんな神さまかというのを人間が忘れないようにまとめた言葉です。もしかしたらこれと呼んでいるみんなも口にしたことがあるかもしれないし、知っているかも知れません。いつも逗子教会での大人の礼拝や、それこそ、日本、全世界のいろんな教会でこの使徒信条は教えられて、礼拝で唱えられています。その使徒信条の1行目に、こんな言葉があります。

「わたしは、天地の造り主、全能の父なる神を信じます」

神さまは全能だって書いてあります。全能とは、なんでもできるという意味です。皆さんもたくさん聖書のお話を聞いてきたと思います。たとえば、この世界、私たちや目に映るもの全てをお造りになったのは神様です。この使徒信条にあるように天地の造り主って書いてあるようにです。そうです。神さまがこの世界全てをお造りになったのです。いわば、全てのお父さん。と言っていいかもしれない。

私たちそれぞれにいるお父さんお母さんとかそう言った以上に、全てを作ったお父さんが神さまで

す。だから、お祈りで父なる神さまとか聞くことがあると思います。あれはもちろん、イエスさまのお父さまって意味もあるけれど、ここにいる私たち全員を含めて、全てのお父さんって意味もあるんです。そんな神さまだから、詰まるところ、神さまに出来ないことは何もない。ということなんですね。なぜならこの世界の全部を作ってるのは神さまですから、この世界で知らないことは何もないのです。まとめると、この使徒信条の一行目にある言葉は私たちは、そんな天地の、全ての造り主であつて、出来ないことは何もない神さまを信じてますって言葉なんです。

今日の聖書箇所に戻りましょう。

先ほど説明したように、その天地の造り主、全治全能の神さまが私たちにお願いをしています。求めなさいというお願いです。イエスさまを通じて、聖書を通じて、神さまがみんなにお願いをしています。神さまはねみんなを知りたいんです。もちろん、全治全能の神だから、何も言わなくても知ってるんだけど、それでも、みんなの口からみんながどういう気持ちで、どういう思いで1日1日を生きているか、どんなことがあつたかとか、これを知りたいのです。だから、心のとびらを開けて、なんでも言ってねって神さまは言ってる。求めなさいっていうのはそういうことです。なんでも言って欲しいって。神さまは何も言わないままでいて欲しくないって思ってます。何も言わないで、後から、実はああしたかった、これが欲しかったとか、言わないで欲しいって、後悔しないで生きて欲しいって思っています。何も言わずに後悔すること。それってみんなが悲しいと思うんです。自分も、みんなのお父さん、お母さんも、そして、全てのお父さん、創り主である神さまもだれも喜んでる人がいない。それって悲しい。だから求めてって、頼ってって、神さまは言ってます。それはなぜか。みんなを愛してるから、ちゃんとみんなのことを考えて、最善、もっとも今のみんなに合うものを、神さまが考えて与えたいって思ってくれてるからです。神さまはみんなにもっともいいものを与えたい。だから、お願いや、お祈りしても、自分が望んでいたものが、あれも欲しい、これも欲しい。神さまくださいって願ったものがもしかしたら与えられないことがあるかもしれません。でも、それは僕らのことを、みんなのことを神様が考えてくださっているものなんだっていうことを忘れないでおきたいです。神さまは意地悪してるんじゃないです。

たとえば、毎日好きだけど、食べ過ぎたら体に悪いものばかり食べて暮らしていたら、体を悪くします。栄養のバランスが偏ってしまうからです。神さまは、僕らの心のバランス、体のバランスをちゃんとみてくれる。そしてそれに合わせて与えてくれる。僕らは神さまの子供です。自分の子供にはいいものを与えることを知っているって聖書に書いてあるように神さまは子供である私たちに与えてくれるんだと思うんです。

「あなたの方の天の父は、求めるものによいものをくださるに違いない。」

そして大事なことです。今ここに生きている私達の命を与えてくれたのは他でもない神さまだということを、これを忘れないでいきたい。私たち1人1人の命がきちんと一日一日を歩めるように、もっともよい、ふさわしいものを与えようと願ってる神さまを、信じて、そうなんだから、信頼して神さまに委ねて、お話しして、よいものが与えられるように、私たちは祈っていききたい、求めていききたいし、神様が与えてくれるものを受け止める準備をいつもしていきたいと思つています。

<神学生 加藤 隆>

\* カードの出典：日本基督教団福音主義教会連合

[\\* 逗子教会 CS についてのお問い合わせはこちらへどうぞ！](#)

電話：046-873-8724 ファックス：046-854-7712 メール：[cs@zushikyokai.holy.jp](mailto:cs@zushikyokai.holy.jp)